

■竹川竹斎 殖産興業家。私財投じて農民を救済、自助努力のため膨大な蔵書を公開して{射和文庫}を創設も、維新で倒産。

たけがわちくさい

浮世風呂 1809 = 伊勢国射和で、_近江から逃れた浅井長政の叔父の末裔の豪商竹川家の一族東竹川家の嫡男に生まれる。

父は江戸店を取り仕切る一方、本居宣長の門人で、歌集や紀行文も著し、母は荒木田久老の娘でやはり歌集や日記文を残すという文化的環境に育ち、

水野忠成老中 1818 = 9歳 :

..... 1820 = 12歳 : 本家の当主に伴われて江戸に出、両替店での修業を始め、

シボ^ボト^ト鳴滝塾 1824 = 15歳 : 読書稽古の禁のなか、隠れて書店に通い大量の文献を読破し、
元服。

日本外史 1827 = 18歳 : 江戸での修業を終え、一旦帰郷後、続けて大坂店で修業、読書稽古の禁を解かれて、儒学者や本居大平門下国学者に入門して勉学、

シボ^ボト^ト事件 1828 = 19歳 :

シボ^ボト^ト追放 1829 = 20歳 : 大坂の修業も終えて帰藩、家督を相続し、東竹川家七代目当主となると、射和の農民の窮状を救うべく、新たな溜池の築造を決意し、江戸に出、店に出入りする佐藤信淵から農業土木ほかの技術を、奥村増?から地理測量を学ぶうち、

天保大飢饉始 1833 = 24歳 : 天保の大飢饉となり、事態の深刻さに計画を前倒し、

..... 1836 = 27歳 : 私財を投げ出し、一族その他商家にも資金協力を得て、上池普請に着手し、

大塩平八郎乱 1837 = 28歳 : *多数の老若男女の労働参加を得て、完成、富商に頼る一方だった農民に、自助努力を促すことにもなる。

_この間、蒐集してきた膨大な文献を活用すべく、定例の学習会も始め、

順天堂始 1843 = 34歳 : この頃、函館の豪商渋田利左衛門勝海舟を紹介されると、弟川口信義を通じて財政的に支援し始め、

阿部正弘首座 1845 = 36歳 :

大久保一翁・杉享二ら一流の人物との交流の機会も得る。

北斎没 1849 = 40歳 : *さらに、農民の自助努力を進めるべく、茶栽培に乗り出し、

ペリー来航 1853 = 44歳 : 千宗室が来訪し、社友が直接指導を受ける。_ペリー来航に危機感を覚え、「海防護国論」を書き、

開国開港 1854 = 45歳 : *阿部正弘に感銘与える。地域住民を啓蒙すべく、隠居して、父が称していた号竹斎を名乗り、膨大な蔵書を公開する{射和文庫}や活用して勉学する{射陽書院}を創設、現代の図書館を先駆する。「護国後論」、

安政大地震 1855 = 46歳 : 「神宮守衛神八重垣」など、次々著す。大久保一翁・勝海舟が来訪し懇談、以後も文書通じて意見、

松下村塾 1856 = 47歳 : 祖父の妹の嫁ぎ先が沼波弄山だったことから、_射和万古窯を開き、名工を呼んで本格的製陶事業も開始、

桜田門外変 1860 = 51歳 :

遣欧使節 1861 = 52歳 : 弟と、_製茶の共同事業を開始するなどするが、

生麦事件 1862 = 53歳 : 「賤賀雄誥」。

8月18日政変 1863 = 54歳 :

茶および茶園・桑及び桑園のことを書いて、

薩長同盟 1866 = 57歳 : 大久保一翁により出版される。

_激動にもまれ、事業は何れも頓挫してしまった上、

明治維新 1868 = 59歳 : *新政府に幕府からの預かり金を没収されて倒産。

学問のすすめ 1872 = 63歳 :

明治6年政変 1873 = 64歳 :

明治14年政変 1881 = 72歳 :

新体詩抄 1882 = 73歳 : _没した。

「人づくり風土記(三重)」、